

平井尚志の なめとこ山通信

最終回 終わりは始まり



皆さん、こんにちは。「なめとこ山通信」最終回になりました。ま、前回、湿っぽいことを書きましたから、今回はサクッと早く終わらせます。

学校の「論理国語」という授業で、脳科学者の茂木健一郎さんの文章「最初のペンギン」を読みました。その中で茂木さんは、人間は神様ではないから、「どのような選択をして、どのような道を選べば生きるうえで最も有益なのか、それがわからないままに判断し、決断し、選択している。」と述べます。でも人間は、「有限の立場」にいるからこそ、「創造」ということと深く結びついているとするのです。限りがあるからこそ、それを乗り越えるために、「未知の世界にジャンプ」したり、海に飛び込む「決断」を下したり、「感情のニュアンス」や「感情の技術」、「直観」を駆使して、私たちは「創造」していったよ、というのが茂木さんの主張でした。

命には、どうして終わりがあるのだろう、ということ時々考えます。でも実は、ずっと生きている生物も、いたりするのです。人や、多くの生物が死んでしまうのは、次の世代に代わってしまうことの方が、利があるからです。命とはそのように、バトンを繋いでいくことがプログラムされているものなのです。終わりは、次の世代の始まりなのです。限りあることは、次の「創造」に、結びついているのです。

冒険学校はとりあえず終わりになりますが、すぐまた皆で会えると思いますよ。「なめとこ山通信」は、次の「未知の世界にジャンプ」！ するかなあ～。

最近読んだ本で面白かったのは、「人類の深奥に秘められた記憶」セネガル人の作家、モアメド・ムブガル・サールによる小説。グイグイ引き込まれて読みました。

最近、本当にえいやって思って決断して買ったもの。オーボエ。とうとう買いました。いくらしたかは、ちょっと言えないぐらいです。ああ本当に、そのうち宝くじが当たりますように、そうじゃないと、自分の老後の生活はありません。



オーボエ

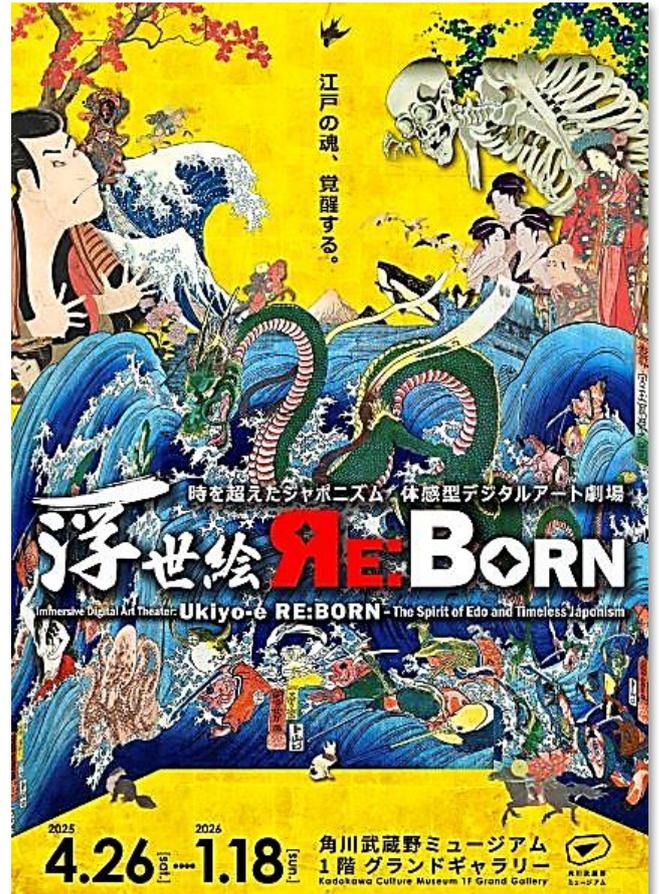


角川武蔵野
ミュージアム



ちょっと行ってみたいところ、角川武蔵野ミュージアム。去年、池上彰さんが館長になりました。図書館のような、美術館のような、博物館のようなところ。企画展として、「浮世絵 RE:BORN」てのをやってます。あ、浮世絵の企画展は、上野の森美術館でも「五大浮世絵師展」てのをやってますね。どちらも興味深いです。

夏に、生徒と一緒に映画を作りたいと思っています。自分が脚本を書いて、カメラを回すつもりでいます。あ、言っちゃった。そう、口に出したからには、やりますよ、たぶん。



終わりは始まり。なめとこ山の、平井尚志でした。

皆さん、お元気で！ また会いましょう！